

# **2013年度 決算説明会**

**2014年4月25日**

## **コマツ出席者**

<b>代表取締役社長(兼)CEO</b>	<b>大橋 徹二</b>
<b>取締役(兼)専務執行役員CFO</b>	<b>藤塚 主夫</b>
<b>常務執行役員経営管理部長</b>	<b>杉木 亮</b>

16:00 開会

16:05 ご説明

①2013年度決算の概要

取締役(兼)専務執行役員 CFO 藤塚 主夫

②2014年度の業績見通し

常務執行役員 経営管理部長 杉木 亮

16:45 質疑応答

17:30 閉会

# 2013年度決算の概要

コマツ  
取締役(兼)専務執行役員 CFO  
藤塚 主夫

## 2013年度の概況

4

## 1. 売上・利益

- ・連結売上高は前年比+3.6%増収の1兆9,536億円。
- ・営業利益は前年比+13.7%増益の2,404億円、売上高営業利益率は同+1.1ポイント増の12.3%。

	2012年度	2013年度 [ ]:10月公表 見通し	前年比
連結売上高	18,849億円	[18,600億円] 19,536億円	+3.6%
営業利益	2,116億円	[2,100億円] 2,404億円	+13.7%
売上高営業利益率	11.2%	12.3%	+1.1ポイント
純利益*1	1,263億円	[1,360億円] 1,595億円	+26.3%
ROE	11.5%	12.4%	+0.9ポイント
ネットD/Eレシオ (リテールファイナンス会社を除いた場合)	0.49 (0.20)	0.37 (0.08)	0.12ポイント改善 (0.12ポイント改善)

\*1米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

## 2. 各セグメントの状況

## ■ 建設機械・車両

建設機械の需要は、回復に転じた中国と、日本の伸長が寄与し、全体で前年比で増加。  
鉱山機械の需要が低調に推移したものの、円安の効果が大きく、前年比増収増益。

## ■ 産業機械他

工作機械、板金・鍛圧機械の販売は堅調に推移したが、ワイヤーソーの需要は低迷。  
ワイヤーソー在庫に係る損失を計上し、前年比減収減益。

3. 年間配当金: 58円/株 (当期純利益に対する配当性向:35%) (前期:48円/株)  
中間配当金29円/株、期末配当金29円/株 \*2、年間計58円/株 (\*2 第145回定時株主総会に付議予定)

□2013年度、コマツの連結売上高は前年比+3.6%増収の1兆9,536億円、営業利益は前年比+13.7%増益の2,404億円となりました。営業利益率も1.1ポイント改善し、12.3%となりました。

□建設機械・車両:中国、日本において建機需要が増加しましたが、鉱山機械需要が大きく落ち込みました。為替の影響もあり、全体では前年比増収増益になりました。

□産業機械他:自動車産業向けを中心に工作機械、板金・鍛圧機械は堅調に推移しましたが、ワイヤーソーの販売が更に落ち込んだことなどにより、売上は減少しました。またワイヤーソー在庫に係る損失の計上により、対前年減益となりました。

□純利益は前年比26%増の1,595億円です。ROEは+0.9ポイント改善し、12.4%となりました。

□当期末の配当金は29円/株の予定です(本年6月18日開催予定の定時株主総会に提案の予定)。

□中間配当金29円/株を含めた年間配当金は計58円/株となります。

## 2013年度 連結売上高と損益

5

- ・建設機械・車両部門の売上高は、+4.3%増収の1兆7,522億円。セグメント利益は+15.9%増益の2,421億円。セグメント利益率も+1.4ポイント改善し、13.8%。
- ・産業機械他部門は減収減益。ワイヤーソー在庫に係る損失を▲108億円計上。

%) : 利益率 ( ) : 外部顧客向け売上高

金額単位: 億円

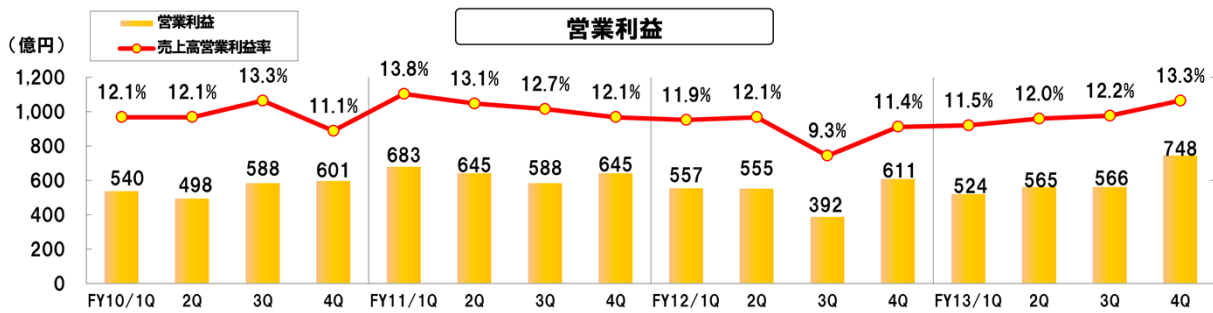
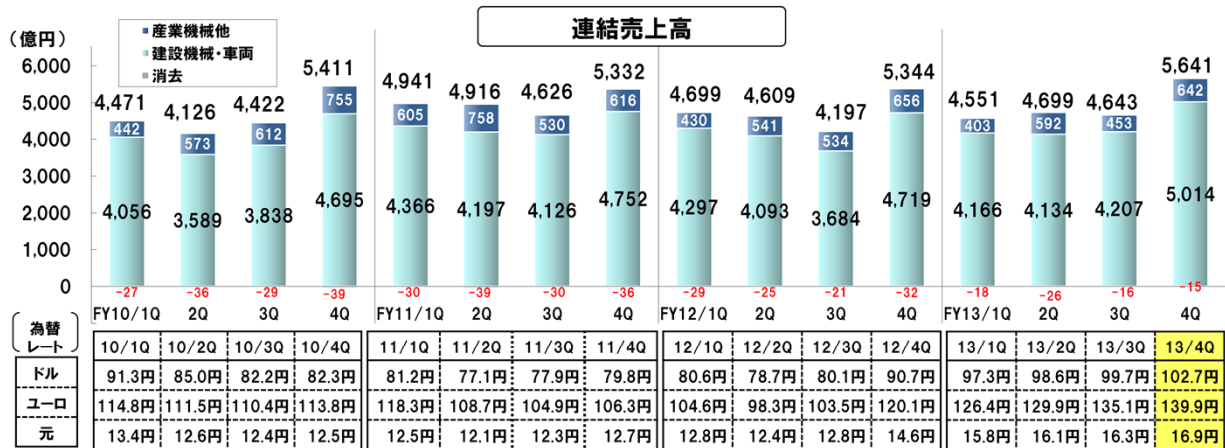
	2012年度 1ドル=82.5円 1ユーロ=106.6円 1元=13.2円	2013年度見直し (10月公表値) 1ドル=96.5円 1ユーロ=125.6円 1元=15.6円	2013年度 1ドル = 99.6円 1ユーロ = 132.8円 1元 = 16.3円	前年比	
				増減	増減率
売上高	18,849	18,600	19,536	+686	+3.6%
- 建設機械・車両	(16,770) 16,795	(16,630) 16,650	(17,497) 17,522	(+727) +726	(+4.3%) +4.3%
- 産業機械他	(2,079) 2,162	(1,970) 2,030	(2,039) 2,091	(▲40) ▲71	(▲1.9%) ▲3.3%
- 消去	▲108	▲80	▲77	+30	-
セグメント利益	11.4% 2,140	11.3% 2,100	12.4% 2,422	+281	+13.2%
- 建設機械・車両	12.4% 2,089	13.2% 2,200	13.8% 2,421	+331	+15.9%
- 産業機械他	2.9% 62	▲3.4% ▲70	1.0% *1 20	▲41	▲67.2%
- 消去または全社	▲11	▲30	▲19	▲7	-
その他の営業収益(▲費用)	▲24	0	▲17	+7	-
営業利益	11.2% 2,116	11.3% 2,100	12.3% 2,404	+288	+13.7%
その他の収益(▲費用)	▲69	▲10	15	+85	-
税引前当期純利益	2,046	2,090	2,420	+374	+18.3%
純利益 *2	1,263	1,360	1,595	+331	+26.3%

\*1 コマツNTCにおけるワイヤーソー在庫に係る損失▲108億円を含む。

\*2 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

- 為替レートは、1ドル:99.6円、1ユーロ:132.8円、1元:16.3円と昨年度に比べ、円安になりました。
- 建設機械・車両部門では、外部顧客向け売上高は前年比+4.3%増収の1兆7,497億円となりました。中国、日本の需要が増加しましたが、鉱山機械の新車需要が大幅に落ちました。為替の影響が約1,936億円あり、物量ベースでは約▲7%の減収でした。
- 建設機械・車両部門のセグメント利益は、前年比+15.9%の2,421億円となり、セグメント利益率も+1.4ポイント改善し、13.8%となりました。
- 産業機械他部門では、ワイヤーソーの需要が引き続き低迷したこともあり、減収となりました。利益についてもワイヤーソー在庫に係る損失▲108億円を計上したこともあり、減益となりました。
- 昨年10月に見直した見込みに対しては、売上高で+936億円、営業利益で+304億円の戻りがありました。

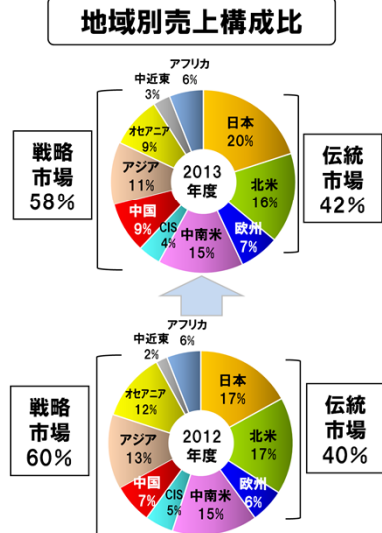
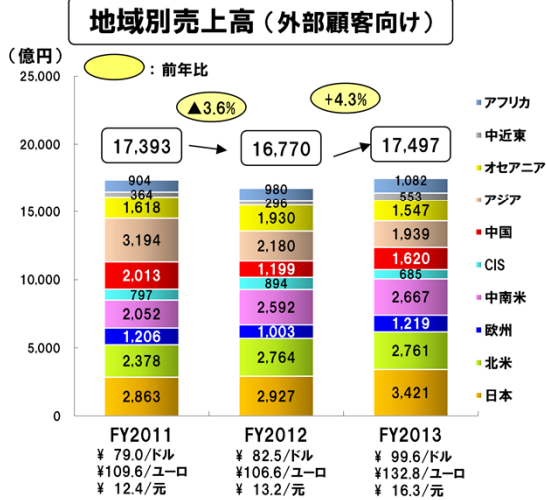
四半期毎の連結売上高と営業利益の推移



□為替の影響もありますが、営業利益率は2012年度第3四半期を底に、改善傾向にあります。

<建設機械・車両> 地域別売上高(外部顧客向け)

・鉱山機械の需要減に伴いオセアニア、アジアの構成比が減少した一方、好調な日本市場の売上増を受けて伝統市場の比率が増加。建設機械・車両部門の売上高は、前年比+4.3%増収の1兆7,497億円。



売上高伸率(前年比)

%	日本	北米	欧州	中南米	CIS	中国	アジア	オセアニア	中近東	アフリカ	合計
2012年度	+2.2%	+16.3%	+16.8%	+26.3%	+12.2%	▲40.4%	▲31.8%	+19.3%	▲18.6%	+8.3%	▲3.6%
2013年度	+16.9%	▲0.1%	+21.5%	+2.9%	▲23.4%	+35.1%	▲11.1%	▲19.9%	+86.6%	+10.4%	+4.3%

□建設機械・車両の売上高は、好調な日本が大きく売上を伸ばした他、回復に転じた中国や、中近東、アフリカ等でも前年比で増収となりました。

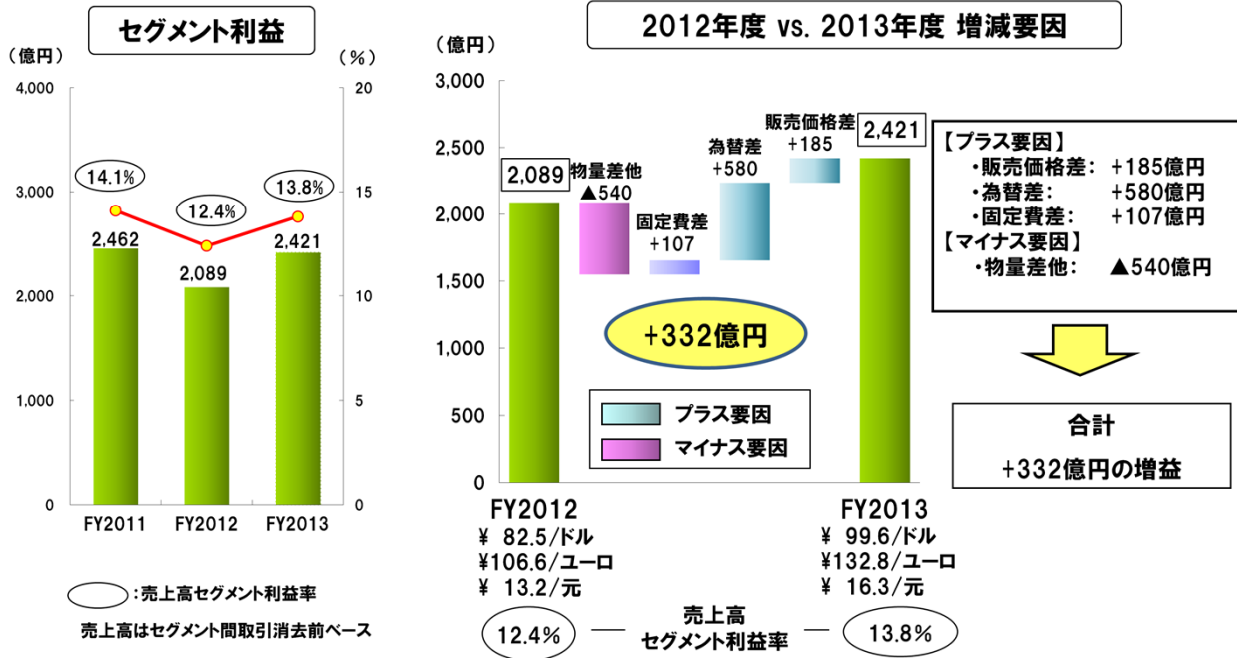
□オセアニア・CIS・アジアでは鉱山機械の需要減少の影響が大きく、前年比減収となりました。

□全体では前年比+4.3%、+727億円の増収ですが、為替換算差で約+1936億円の効果があり、物量ベースでは▲7%減収でした。

□上記により、伝統市場の比率が42%に増加しました。

<建設機械・車両> セグメント利益・前年比増減要因

・需要・販売の減による物量差他▲540億円を、販売価格差、固定費差、為替差でカバーし、ネットでは前年比+332億円の増益。  
 ・売上高セグメント利益率は、+1.4ポイント増の13.8%。



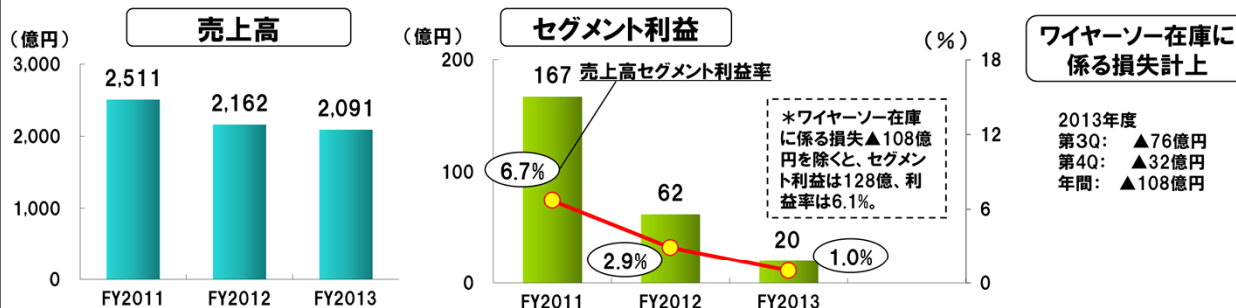
□需要・販売の減少による物量差他の▲540億円を、販売価格差+185億円、固定費差+107億円、為替差+580億円のプラスでカバーし、前年比+332億円の増益となりました。

□固定費差+107億円には、減価償却方法を定率法から定額法に変更したことによる影響約+100億円を含んでいます。



<産業機械他> 売上高とセグメント利益

・工作機械および板金・鍛圧機械の販売が底堅く推移したものの、ワイヤーソーの販売が更に落ち込んだことなどにより、売上高は2,091億円で前年比▲3.3%の減収。  
 ・セグメント利益は、ワイヤーソー在庫に係る損失▲108億円を計上し、減益。



売上高の内訳

金額単位: 億円

	2011年度	2012年度	2013年度	前年比	
				増減	増減率
コマツ産機等 (板金鍛圧事業合計)	466	541	545	+4	+0.7%
コマツNTC [うち、ワイヤーソー]	1,088 [465]	773 [73]	735 [58]	▲38 [▲15]	▲4.9% [▲20.5%]
その他 [うち、キガフオン] [うち、コマツハウス]	956 [146] [303]	848 [230] [163]	811 [240] [164]	▲37 [+10] [+1]	▲4.3% [+4.2%] [+0.3%]
合計	2,511	2,162	2,091	▲71	▲3.3%

□産業機械他部門では、自動車業界向けを中心に工作機械および板金・鍛圧機械の販売が底堅く推移したものの、ワイヤーソーの販売が更に落ち込んだことなどにより、売上高は2,091億円で前期比▲3.3%の減収となりました。

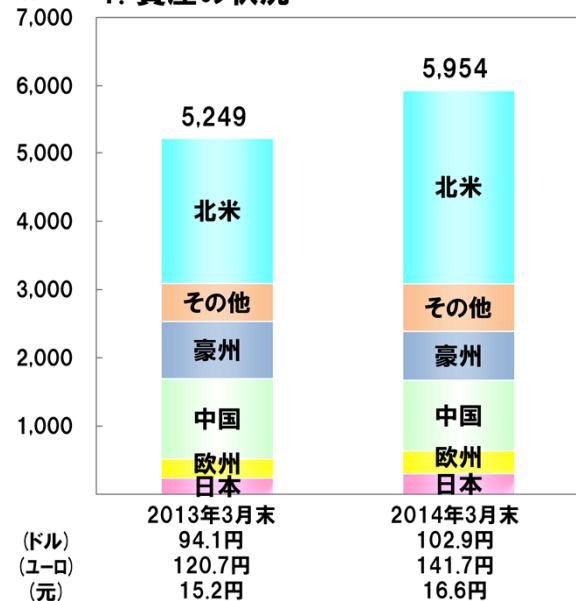
□セグメント利益は、ワイヤーソー在庫に係る損失▲108億円を計上したことにより、20億円の利益に留まりました。

リテールファイナンスの状況

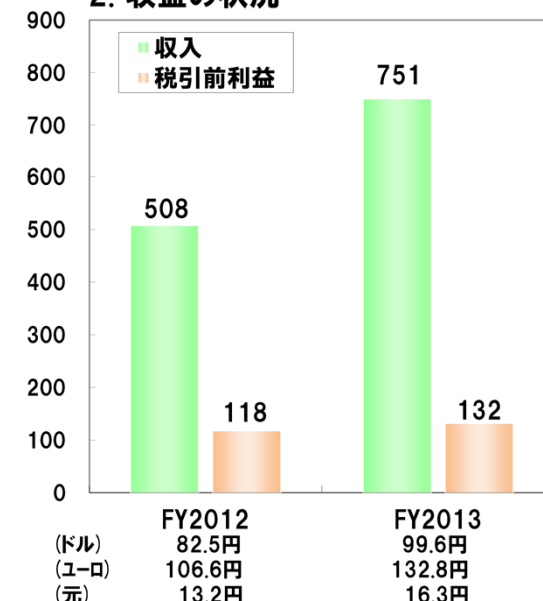
- ・資産は円安の影響に加え、北米、日本等で新規取扱が増えたことにより、前年度末比で増加。
- ・収入、税引前利益は、前年比で増収増益。

リテールファイナンス連結子会社の状況

1. 資産の状況



2. 収益の状況



□リテールファイナンス子会社の総資産は、円安の影響および北米・日本等における新規取扱の増加により、前年度末に比べ約+700億円増加し、5954億円となりました。増加のうち、為替の影響は約+400億円あります。

□収入については、為替影響約+90億円を含め、+243億円増加し751億円となりました。税引前利益は+14億円増益の132億円で、前期比で増収増益となりました。

## 連結貸借対照表

11

- ・総資産は、為替レートが円安となったこと等により前年度末比で+1,336億円増加。
- ・株主資本比率は同+4.5ポイント増の51.9%。ネットD/Eレシオは0.37と、前年度末に比べ改善。

ネットD/Eレシオ	金額単位:億円	2013年3月末 1ドル = 94.1円 1ユーロ = 120.7円 1元 = 15.2円	2014年3月末 1ドル = 102.9円 1ユーロ = 141.7円 1元 = 16.6円	増減
現金・預金(含む定期預金) [a]		938	911	▲26
受取手形・売掛金(含む長期売上債権) ＜除くりテールファイナンス会社＞		8,427 <4,143>	8,782 <4,363>	+355 <+220>
棚卸資産		6,336	6,250	▲85
有形固定資産		5,852	6,673	+821
その他資産		3,624	3,897	+273
<b>資産合計</b>		<b>25,178</b>	<b>26,515</b>	<b>+1,336</b>
支払手形・買掛金		2,262	2,342	+79
借入金・社債 [b] ＜除くりテールファイナンス会社＞		6,797 <2,981>	6,050 <1,786>	▲746 <▲1,195>
その他の負債		3,591	3,711	+120
<b>負債合計</b>		<b>12,651</b>	<b>12,104</b>	<b>▲547</b>
(株主資本比率)		(47.4%)	(51.9%)	(+4.5ポイント)
株主資本		11,931	13,763	+1,831
非支配持分		595	647	+52
<b>負債及び純資産合計</b>		<b>25,178</b>	<b>26,515</b>	<b>+1,336</b>
<b>ネットベースの借入金・社債 [b-a]</b>		<b>0.49</b> 5,859	<b>0.37</b> 5,139	<b>▲720</b>
ネットD/Eレシオ(リテールファイナンス会社を除いた場合)		0.20	0.08	

- 総資産は前年度末比で+1,336億円増加しましたが、為替の影響が約1200億円あり、これを除けば、実質は約100億円の増加です。
- 棚卸資産は、表面上も減りましたが、為替の影響を除けば実質は約▲470億円減少しています。
- 借入金・社債も表面上大きく減らすことができましたが、為替の影響を除くと約▲940億円の減少です。
- 株主資本比率は同+4.5ポイント増の51.9%となりました。
- ネット・デット・エクイティ・レシオは0.37と、更に改善しました。

# 2014年度業績見通し

コマツ  
常務執行役員 経営管理部長  
杉木 亮

## 2014年度の業績見通し(概要)

13

## 1. 売上・損益

- ・売上高は前年比▲3.8%減収の1兆8,800億円、営業利益は同+1.0%増益の2,430億円を見込む。
- ・売上高営業利益率は+0.6ポイント改善し、12.9%の見通し。

	2013年度	2014年度見通し	前年比
連結売上高	19,536億円	18,800億円	▲3.8%
営業利益	2,404億円	2,430億円	+1.0%
売上高営業利益率	12.3%	12.9%	+0.6ポイント
純利益 *1	1,595億円	1,540億円	▲3.5%
ROE	12.4%	11.0%	▲1.4ポイント
ネットD/Eレシオ (リテールファイナンス会社を除いた場合)	0.37 (0.08)	0.30 (0.00)	0.07ポイント改善 (0.08ポイント改善)

\*1 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

## 2. 各セグメントの状況

## ■ 建設機械・車両

- ・主要7建機の世界需要は微減となり、鉱山機械の需要もさらに減少する見込みのため、前年比減収減益の見通し。

## ■ 産業機械他

- ・プレス機械、工作機械の販売が堅調に推移し、前年比で増収増益となる見通し。

## 3. 配当金

- 1株当たり年間配当金は、58円を見込む。  
(当期純利益に対する配当性向は36%)

*は見通し	2013年度	2014年度	増減
中間	29円	29円*	±0円*
期末	29円	29円*	±0円*
合計	58円	58円*	±0円*

- 2014年度の業績は、連結売上高が前年比▲3.8%減収の1兆8800億円、営業利益が同1.0%増益の2,430億円、売上高営業利益率は同+0.6ポイント改善の12.9%の見通しです。
- ROEは前年比▲1.4ポイント低下の11.0%になる見通しです。ネットD/Eレシオは、0.07ポイント改善し、0.30となる見通しです。
- 建設機械・車両部門では、主要7建機の全世界需要が微減となり、鉱山機械の需要もさらに落ち込むことが見込まれます。部品事業の拡大も図りますが、減収減益となる見通しです。
- 産業機械他部門では、自動車メーカーを中心とする設備投資が高いレベルにある中、プレス、工作機械の販売が堅調に推移し、前年比で増収増益となる見通しです。
- 配当金は1株当たり前年同額の58円を見込んでいます。連結配当性向は36%となる見通しです。

## 2014年度の業績見通し

14

- ・建設機械・車両部門は減収減益。セグメント利益率は+0.3ポイント改善し、14.1%の見通し。
- ・産業機械他部門は増収増益の見通し。
- ・売上高営業利益率は前年比+0.6ポイント改善し、12.9%の見通し。

	%   利益率 ( ): 外部顧客向け売上高		金額単位: 億円	
	2013年度 1ドル=99.6円 1ユーロ=132.8円 1元=16.3円	2014年度見通し 1ドル=100円 1ユーロ=137円 1元=16.2円	前年比	
			増減	増減率
売上高	19,536	18,800	▲736	▲3.8%
- 建設機械・車両	(17,497) 17,522	(16,620) 16,650	(▲877) ▲872	(▲5.0%) ▲5.0%
- 産業機械他	(2,039) 2,091	(2,180) 2,220	(+140) +128	(+6.9%) +6.1%
- 消去	▲77	▲70	+7	-
セグメント利益	12.4% 2,422	13.0% 2,450	+27	+1.2%
- 建設機械・車両	13.8% 2,421	14.1% 2,350	▲71	▲2.9%
- 産業機械他	1.0% *1 20	5.4% 120	+99	+488.8%
- 消去または全社	▲19	▲20	▲0	-
その他の営業収益(▲費用)	▲17	▲20	▲2	-
営業利益	12.3% 2,404	12.9% 2,430	+25	+1.0%
その他の収益(▲費用)	15	▲60	▲75	-
税引前当期純利益	2,420	2,370	▲50	▲2.1%
純利益 *2	1,595	1,540	▲55	▲3.5%
1株当たり配当金(円)	58円	58円	±0円	

\*1 コマツNTCにおけるワイヤーソー在庫に係る損失▲108億円を含む。

\*2 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

□2014年度の為替レート的前提は、1ドル:100円、1ユーロ:137円、1元:16.2円と致します。ほぼ前年並みのレベルです。

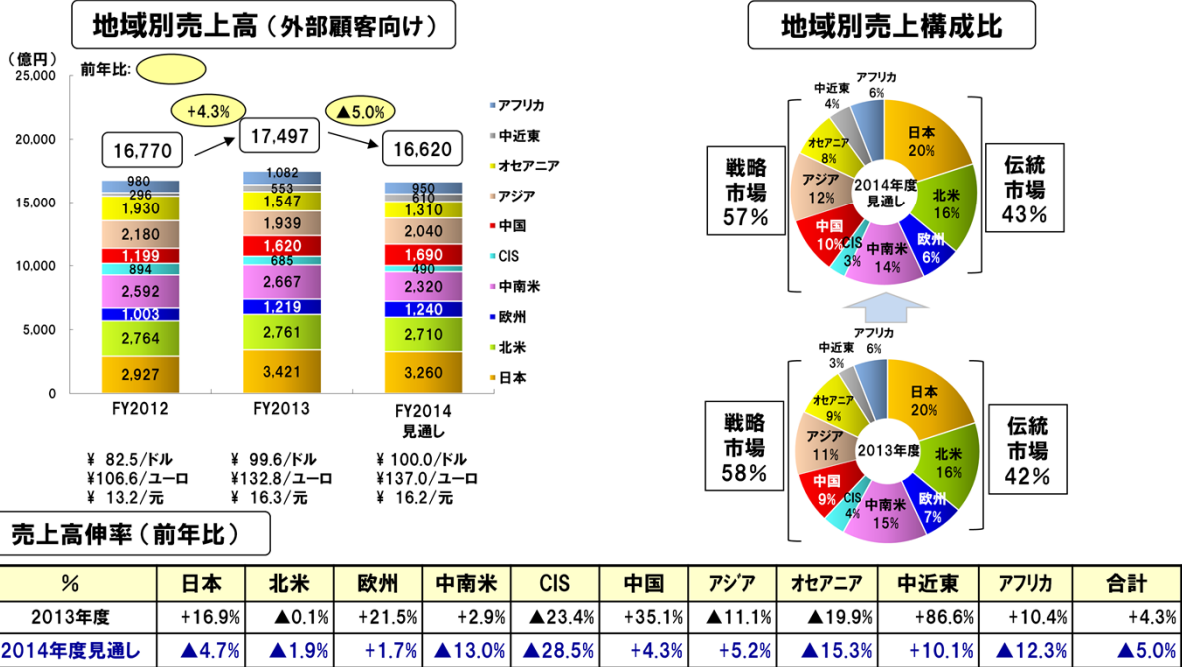
□建設機械・車両部門は、後のページで示しますように、鉦山機械本体の販売の減少の影響が大きく、減収となる見込みです。セグメント利益も減益となる見通しですが、セグメント利益率としては14.1%に改善する見込みです。

□産業機械他部門は、プレス機械・工作機械の販売増により増収となる見込みで、利益についても昨年度のワイヤーソー在庫に係る損失がなくなることもあり、大幅に増益となる見通しです。

□営業利益は前年比+1.0%増益の2,430億円、売上高営業利益率は12.9%に改善する見通しです。

<建設機械・車両> 地域別売上高(外部顧客向け)の見通し

- ・鉱山機械の需要・販売が減少する影響が大きく、前年比▲5.0%減収の見通し。
- ・地域別にも鉱山機械の比率の大きい地域が大きく減少。
- ・地域別の構成比は、伝統市場の比率が更に上がって、43%となる見通し。



□2014年度の建設機械・車両部門の外部顧客向け売上高は、前年比▲5.0%減収の1兆6,620億円の見通しです。

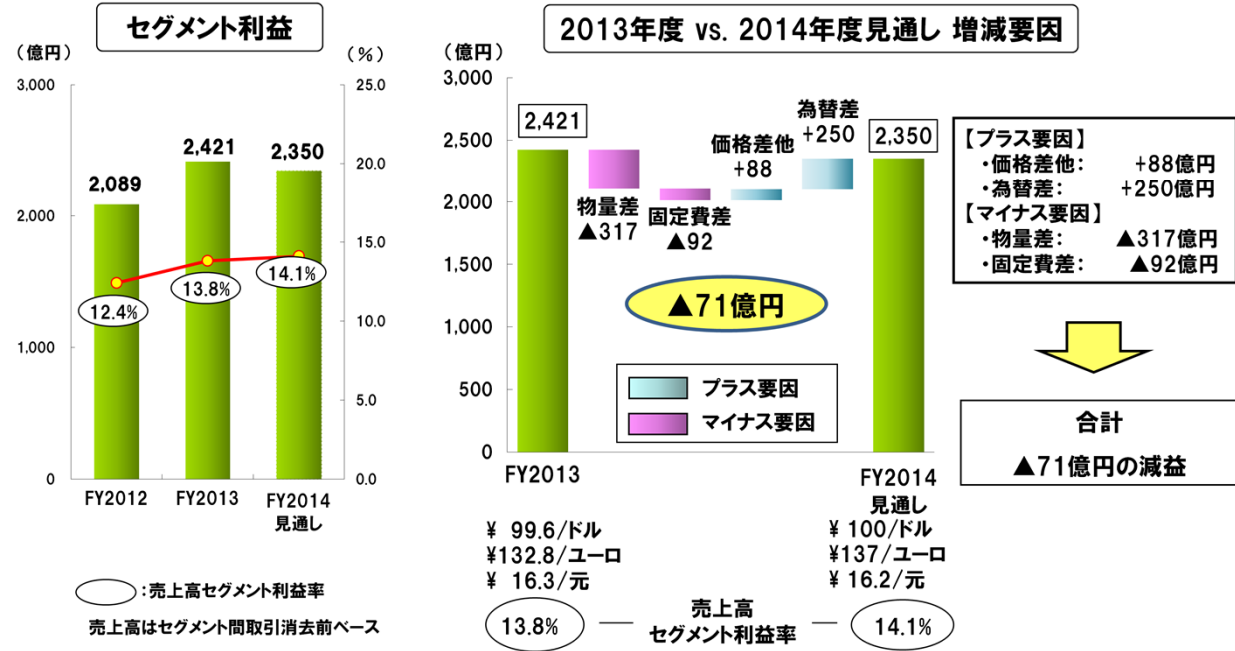
□地域別には、鉱山機械の比率の高い中南米・大洋州・CIS等の地域で減収幅が大きくなる見通しです。

□日本では、昨年度のレンタル向け需要が一巡がすることによる新車販売の減少を部品・サービス事業で補いますが、売上減少となる見通しです。

□2014年度の伝統市場の構成比は、43%に若干上昇する見通しです。

<建設機械・車両> セグメント利益の見通し 前年比増減要因

・セグメント利益は前年比▲2.9%減益の2,350億円、セグメント利益率は同+0.3ポイント改善し、14.1%の見通し。  
 ・主に鉱山機械の需要減による物量減と固定費の増加によるマイナス影響を、価格・原価の改善、為替差によりカバーするが、前年比▲71億円減益の見通し。



□2014年度の建設機械・車両のセグメント利益は、物量減によるマイナス影響▲317億円、固定費の増加によるマイナス影響▲92億円を、販売価格の改善等の+88億円と円安効果+250億円で補うものの、全体では▲71億円の減益となる見通しです。

□セグメント利益率は+0.3ポイント改善し、14.1%となる見通しです。

□物量差は、主に鉱山機械の需要・販売の落ち込みの影響によります。

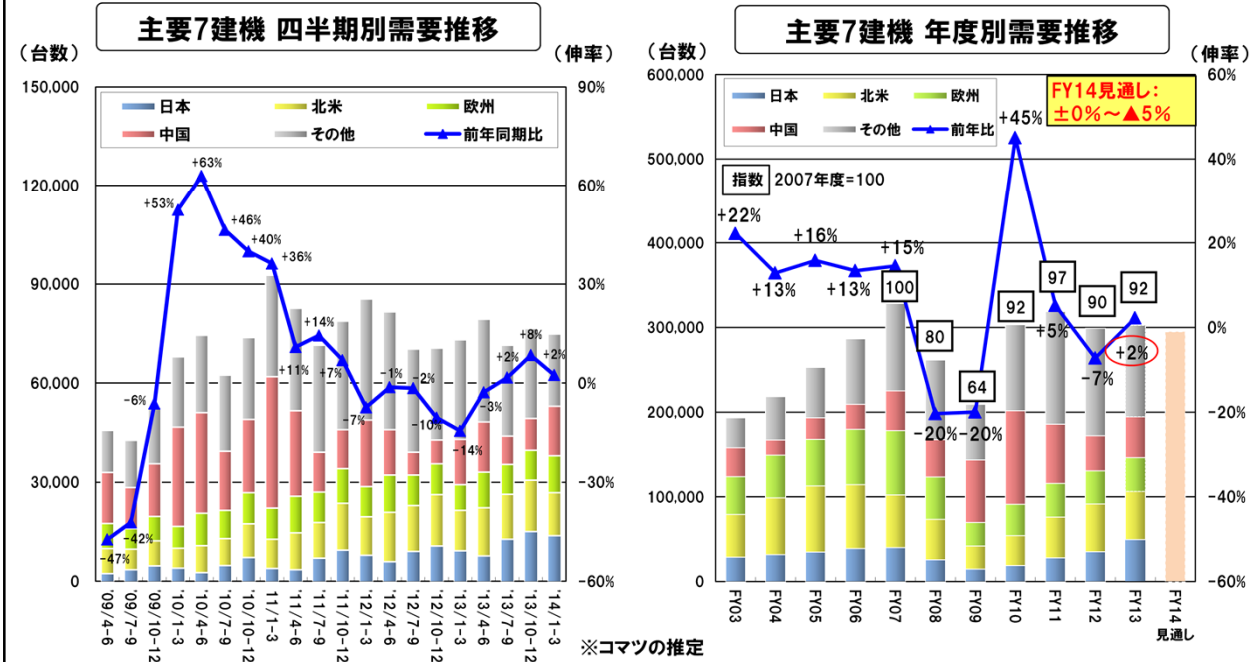
□固定費は、研究開発費の増加や、昨年度減価償却方法を変更したことによる影響約+40億円等により、やや増加する見通しです。

□為替差は主に、12年度後半からの急激な円安の影響が遅れて出てくることによります。



<建設・鉱山機械> 主要7建機需要推移と見通し

- ・2013年度の需要は、中国の需要が底打ちしたこと、日本の需要が大きく拡大したことにより、前年比+2%の増加。
- ・2014年度は、需要が伸びる地域もあるが、日本の減少が大きく、全体の需要は前年比±0～▲5%の見通し。



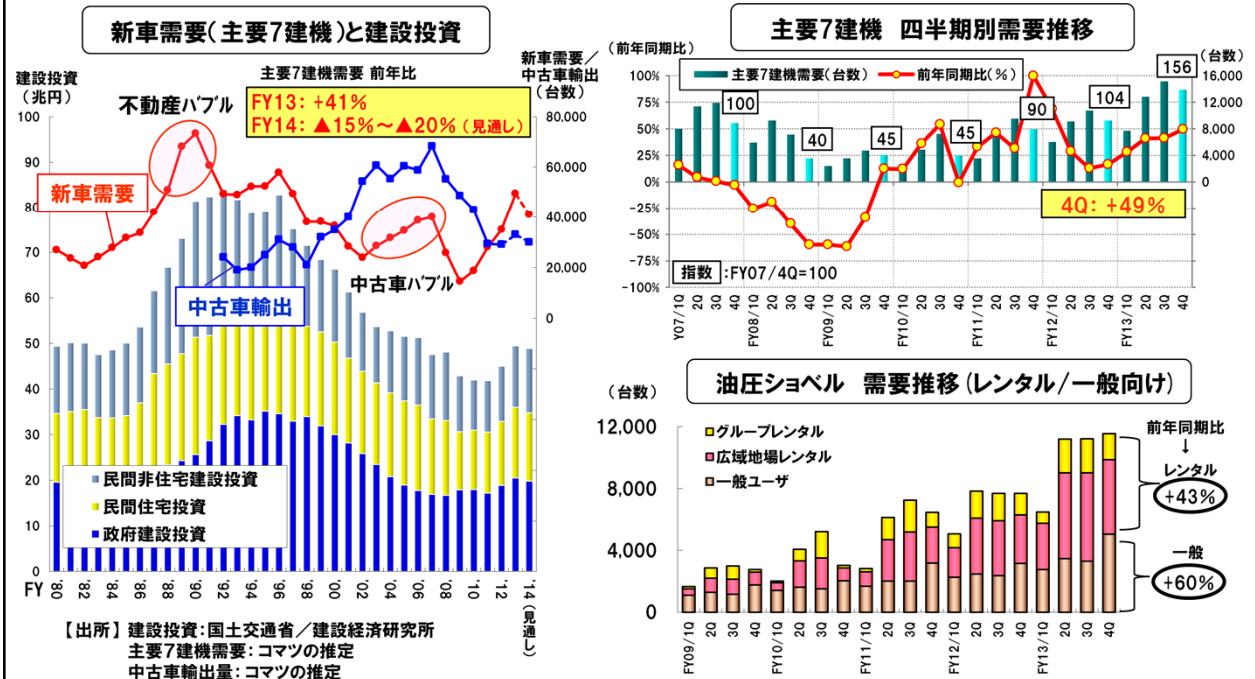
□2013年度の主要7建機の需要は、中国が回復に転じたことと、日本が大きく需要を伸ばしたことから、全体では+2%の増加となりました。

□2013年度第4四半期は、中国が前年同期レベルで終わったことから、全体としても+2%の伸びに留まりました。

□2014年度の需要は、中国が微減となることが予想され、また日本においてレンタル向け需要が一巡することから、全体では前年比±0～▲5%の見通しです。

<建設・鉱山機械> 主要市場の需要推移と見通し: ①日本

- ・2013年度の需要は、建設投資の増加、震災復興工事本格化によるレンタル向け需要を中心に、前年比+41%と大幅な伸び。
- ・2014年度の需要は、レンタル向け需要が一巡することから、前年比▲15%～▲20%の見通し。



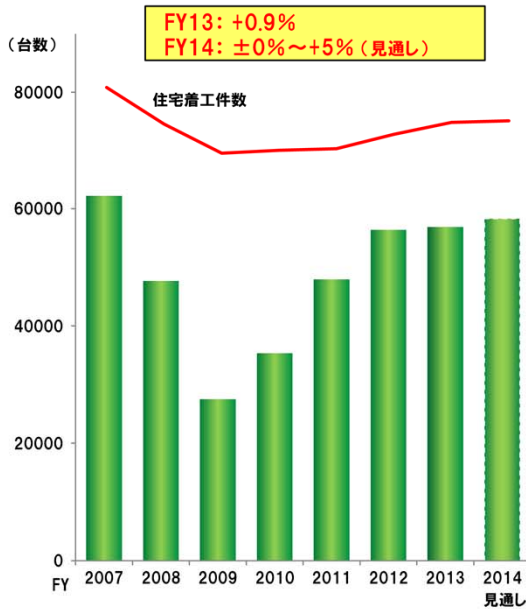
□2013年度の日本の需要は、建設投資の増加、震災復興工事の本格化によるレンタル向け需要を中心に伸長しました。第4Qでは、油圧ショベルの需要が、レンタル・一般とも前年同期比で想定を超えて伸びました。

□2014年度の需要は、建設投資は高いレベルが維持される見込みですが、レンタル向け需要が一巡する影響があり、前年比▲15%～▲20%の見通しです。なお、上期の新車販売見込みの受注充足率については、現時点では昨年同時期に比べて高い状況です。

<建設・鉱山機械> 主要市場の需要推移と見通し: ②北米

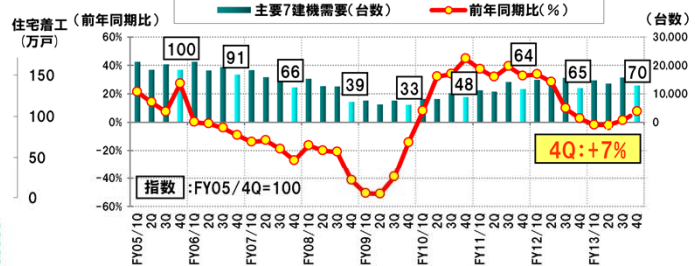
・2013年度は、2012年度のレンタル向け更新需要が一巡した一方、インフラ向け需要が伸長し、前年並みの需要。  
 ・2014年度の需要は、住宅着工が引き続き高い水準で推移する中、一般向けの需要が堅調と見込まれ、前年比±0%~+5%の見通し。

主要7建機 需要推移と住宅着工件数

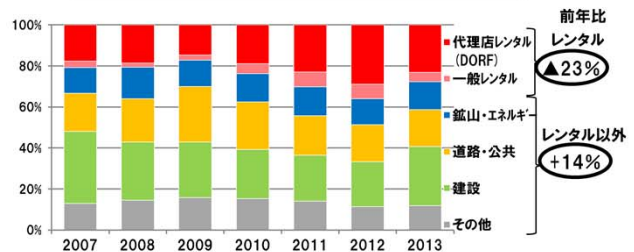


【出所】 主要7建機需要:コマツの推定

主要7建機 四半期需要推移



セグメント別需要構成比 (台数ベース)



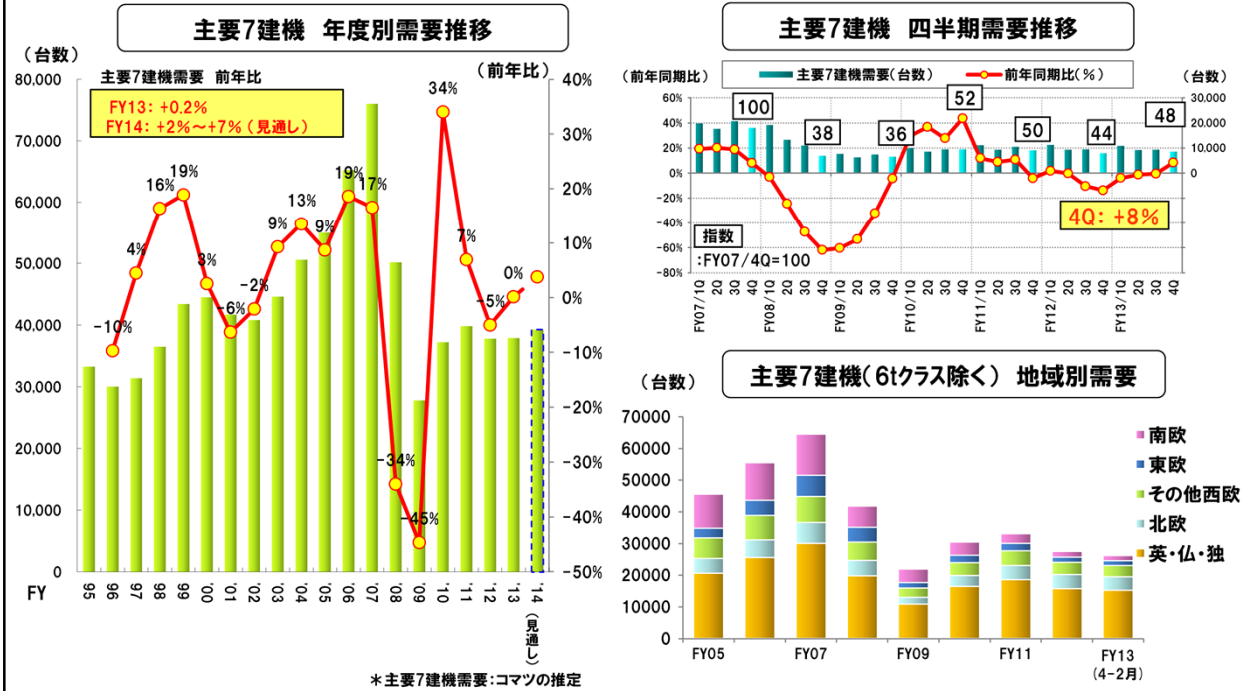
□2013年度の北米の需要は、2012年度からのレンタル向けの更新需要が一巡したことに加え、石炭を中心とする鉱山向け需要が減少したものの、住宅建設や道路などのインフラ分野向けの需要は伸長し、全体では前年並みの需要となりました。

□現在の北米の需要水準は、過去と比較して既に高い水準にあります。2014年度については、住宅着工が引き続き高いレベルで推移すると見られる中、一般向けの需要が堅調と見込まれ、需要は前年比±0%~+5%となる見通しです。

□一方で鉱山機械本体の需要は石炭関係を中心に減少するため、北米向け売上高は若干減少する見込みです。

<建設・鉱山機械> 主要市場の需要推移と見通し: ③欧州

- ・2013年度の需要は、ほぼ前年並み(前年比+0.2%)。
- ・2014年度の需要は、経済の回復に対応して増加(+2%~+7%)を見込む。

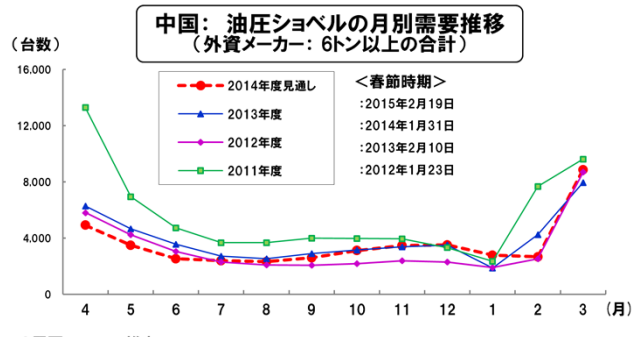
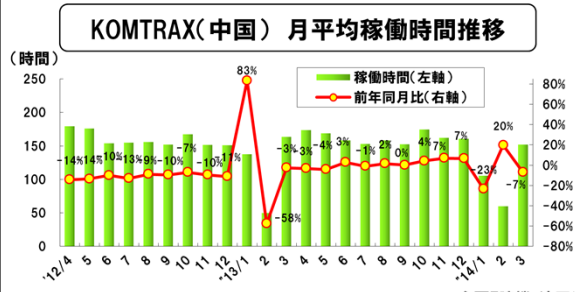
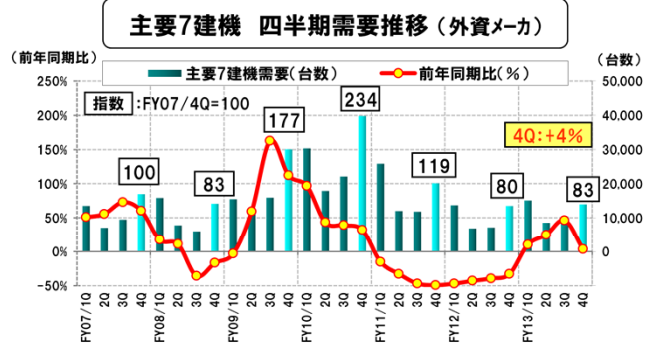
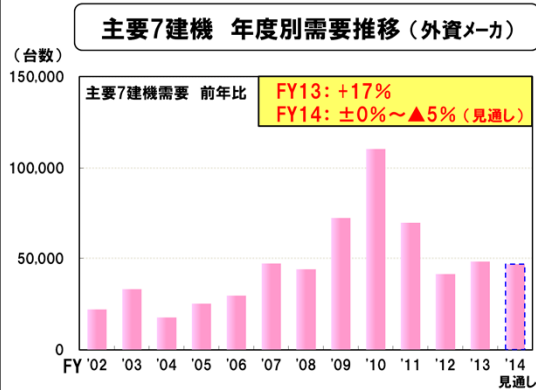


□2013年度の需要は、財政不安による景気低迷から、ほぼ前年並みとなりました。

□2014年度は、主要経済指標が既に好転した中、受注状況も現在のところ前年に比べて好調に推移し、需要は+2~+7%程度の増加となる見通しです。

<建設・鉱山機械> 主要市場の需要推移と見通し: ④中国

- ・2011年度から落ち込んでいた需要は、本年1月の春節(旧正月)以降に一部減速は見られたものの、回復に転じ伸長。年間では前年比+17%。
- ・2014年度の需要は、前年比±0%~▲5%の見通し。

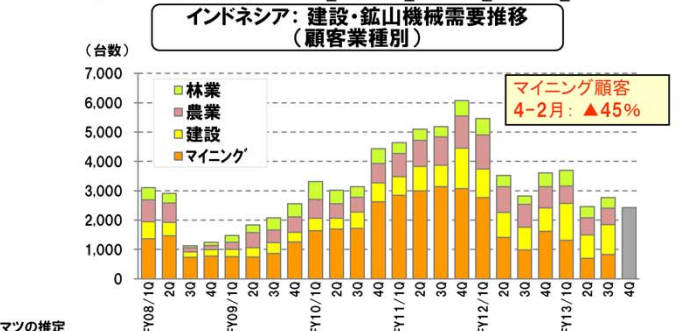
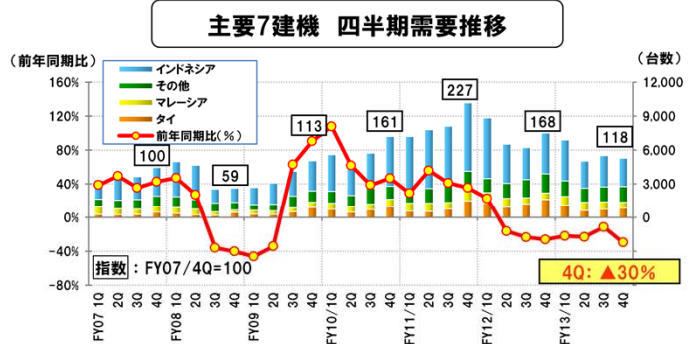
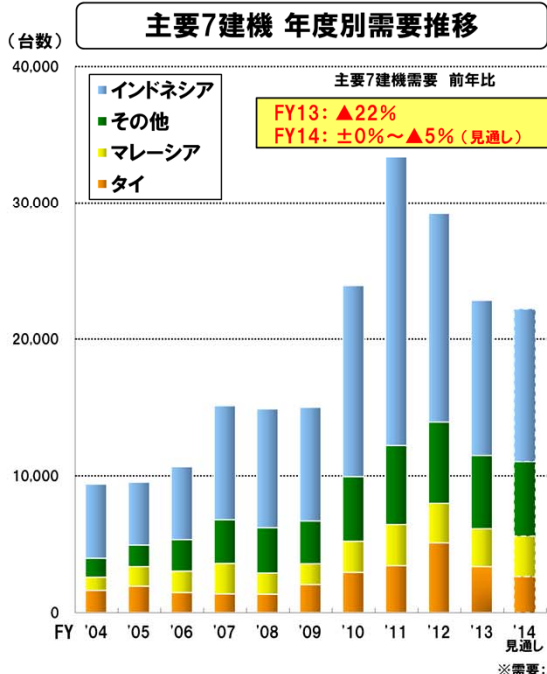


\*主要7建機・油圧ショベル需要: コマツの推定

- 2011年度から落ち込んでいた需要は、昨年4月から回復に転じました。しかし、本年1月の春節(旧正月)以降に若干減速し、2013年年間では前年比+17%の伸びに終わりました。
- 2014年度の需要は、春節が遅くなる影響も含め、前年比±0~▲5%の見通しです。
- 春節後の市場の機械の稼働時間は前年を下回っておりますが、春節明けからの累計の販売台数は、現在までのところ、昨年同期間とほぼ同じレベルで推移しております。

<建設・鉱山機械> 主要市場の需要推移と見通し: ⑤東南アジア

・2013年度の需要は、最大市場のインドネシアでの落ち込みに加え、タイ等でも需要が減少し、前年比▲22%。  
 ・2014年度の需要は、インドネシアでは前年レベルを想定するが、タイの落ち込み等もあり前年比で±0%～▲5%の見通し。



□2013年度の東南アジアの需要は、最大市場であるインドネシアにおいて、燃料炭の国際価格の低迷と昨年8月以降のインドネシアルピア安の影響を受け、需要が低迷しました。タイでも想定以上に需要が落ち込んだことにより、年間では、全体で▲22%のマイナスとなりました。

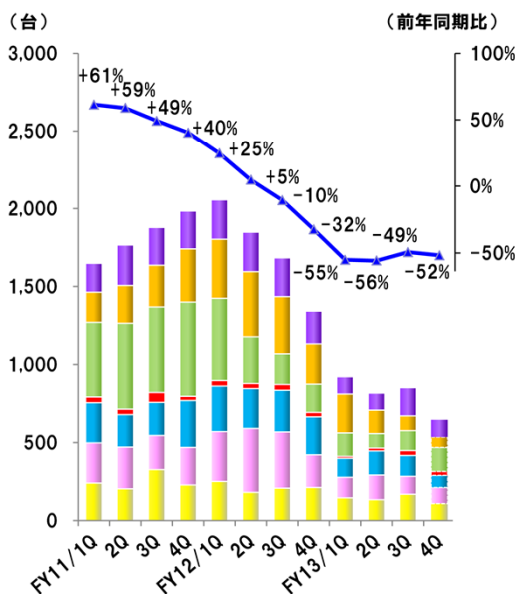
□2014年度の東南アジアの需要は、インドネシアでは前年並みの需要が見込まれますが、タイでの更なる落ち込みもあり、全体では±0%～▲5%のマイナスの見通しです。

□インドネシアの状況ですが、顧客業種別の状況のグラフのように、マイニング顧客向けの需要が引き続き低迷しています。但し、現在、一部の鉱山機械ユーザから引き合いが出てきており、今年度のインドネシアの売上は昨年より増加する見込みです。

<建設・鉱山機械> 鉱山機械の需要推移と見通し

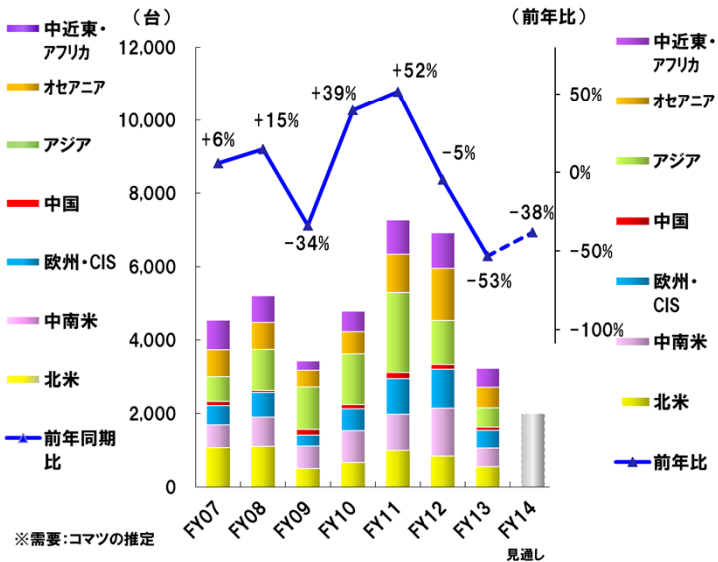
・鉱山機械の世界需要は、2012年度第3四半期から前年同期比マイナスが継続。2013年第4四半期も▲52%となり、2013年度年間では▲53%のマイナス。  
 ・2014年度の需要も、前年比▲38%と更に落ちこむ見通し。

鉱山機械 四半期別需要推移



鉱山機械 年度別需要推移

・ダンフトラック:75t (HD785) 以上  
 ・エクスケーター:200t (PC2000) 以上  
 ・モータグレーダー:280HP (GD825) 以上  
 ・ブルドーザー:525HP (D375) 以上  
 ・ホイールローダー:810HP (WA800) 以上



□ 鉱山機械市場では、資源価格の低迷によりユーザーがコスト改善に注力し、設備投資マインドが冷え込んでいます。鉱山機械の世界需要は、2012年度第3Qから前年同期比マイナスが継続しています。一方、鉱物資源の生産量は依然として安定しており、鉱山での機械の稼働状況も前年並みで推移しております。

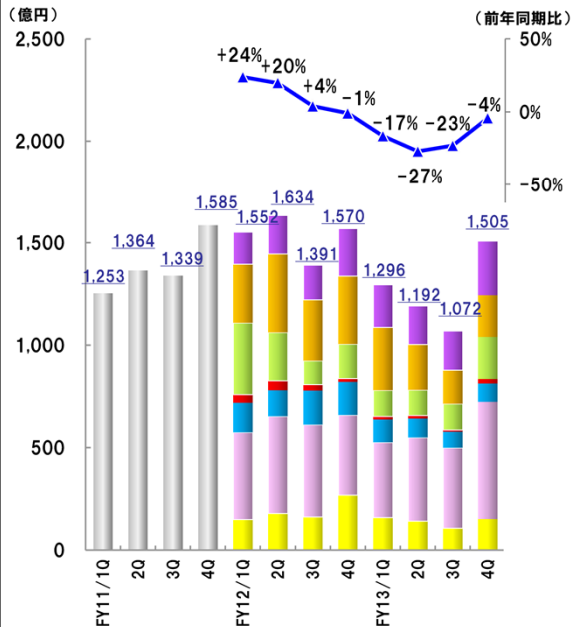
□ 2013年通期の需要は、10月公表時に前年比▲50%減と見ましたが、▲53%の減となりました。

□ 2014年度の需要も更に減少する見通しで、約2,000台にとどまり、前年比▲38%と見込んでおります。

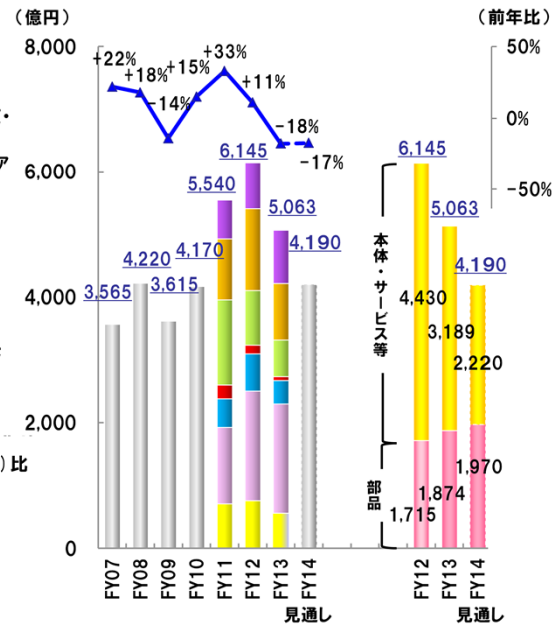
<建設・鉱山機械> 鉱山機械の売上高

・需要の低迷により、鉱山機械の売上高は四半期で前年同期比マイナスが継続。2013年度年間としては前年比▲18%の減収。  
 ▲18%の減収。  
 ・2014年度通期売上見通しは、前年比▲17%の4,190億円の見通し。

鉱山機械 四半期別売上高 (部品・サービス含む)



鉱山機械 年度別売上高 (部品・サービス含む)



□ 鉱山機械本体の需要の低迷により、鉱山機械の四半期売上高は、2012年第4四半期以降、前年同期比マイナスが継続しています。

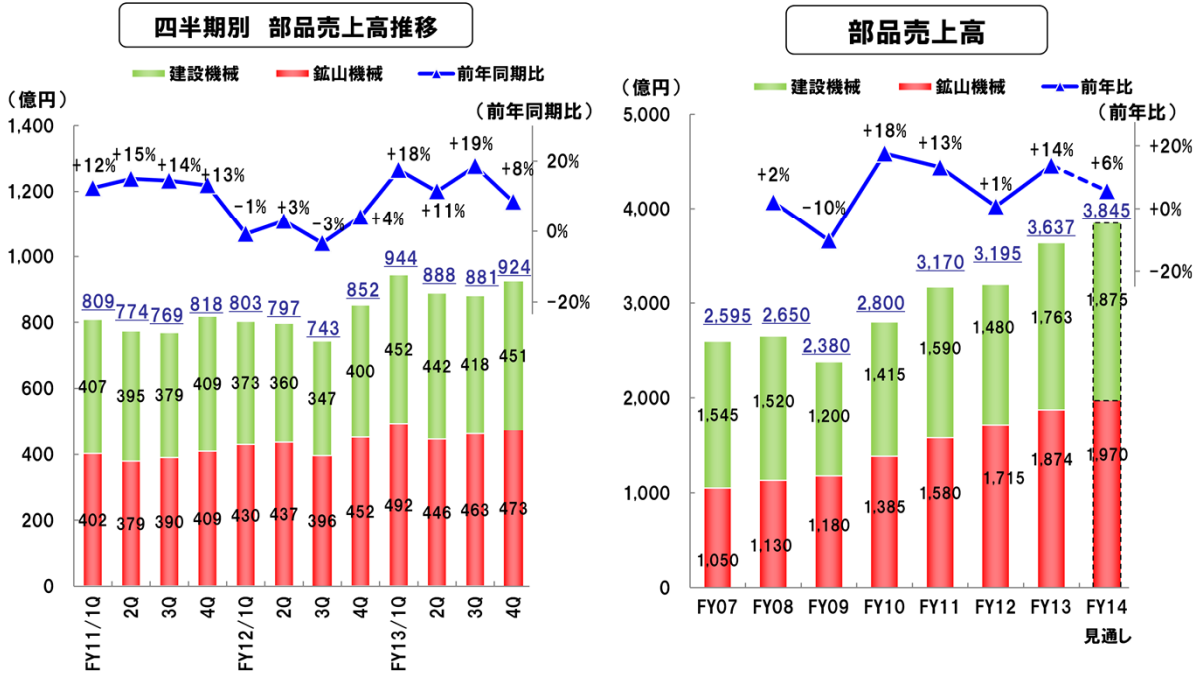
□ 新車需要が大きく落ちる一方、部品売上は比較的堅調で、鉱山機械全体の売上は、2013年度通期では前年比▲18%の減収となりました。

□ 2014年度の売上高は、新車需要の更なる落ち込みを部品販売で一部補いますが、前年比▲17%減収の4190億円の見通しです。



<建設・鉱山機械> 部品の売上高

・第4四半期の部品売上高は、前年同期比+8%。年間では対前年+14%の増収。  
 ・2014年度の売上高は、前年比+6%増収の見通し。



□第4四半期の部品売上高は、前年同期比+8%の924億円となりました。

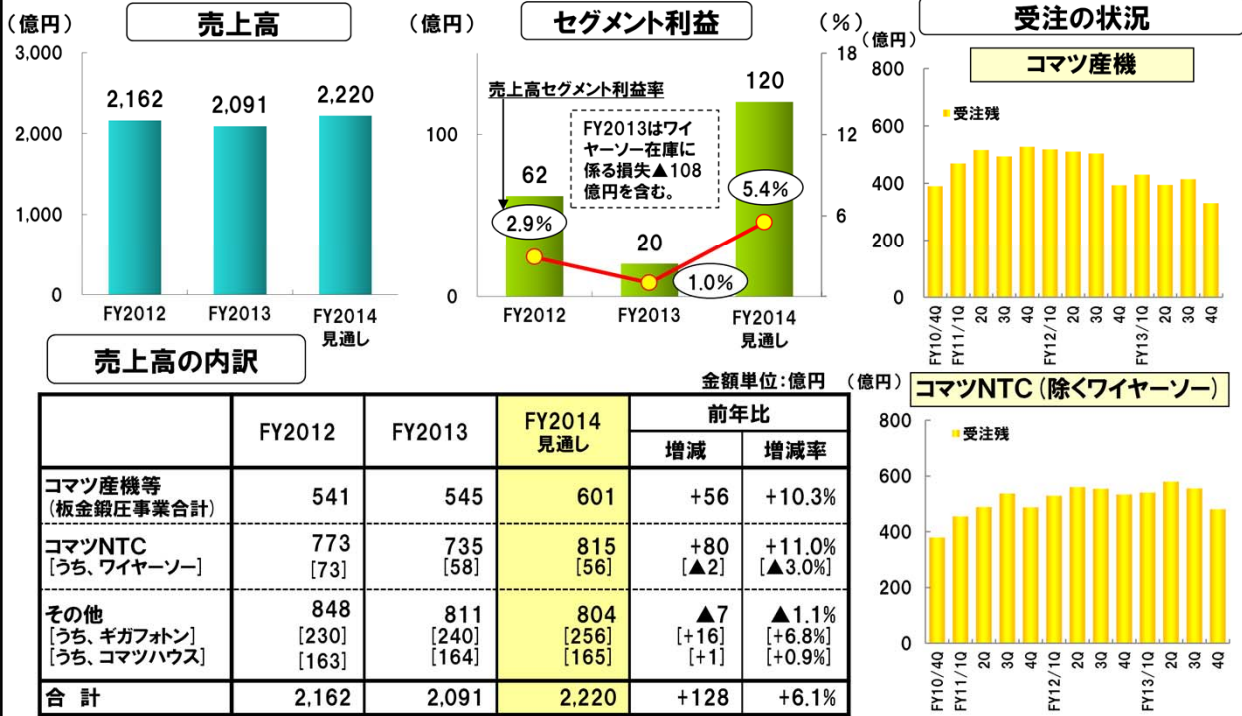
□2013年度の年間売上は、前年比+14%増の伸びとなりました。

□2014年については更なる拡販策も取り、前年比+6%の伸びを目指します。

<産業機械他> 売上高とセグメント利益の見通し

26

・2014年度は、プレス機械、工作機械の販売は堅調に推移し、売上高は前年比+6.1%増収の2,220億円、セグメント利益は120億円の見通し。



□産業機械他部門は、プレス機械、工作機械の販売が堅調に推移し、前年比+6.1%増収の2,220億円となる見通しです。

□セグメント利益は、昨年度のワイヤーソー在庫に係る損失▲108億円がなくなることもあり、120億円となる見通しです。

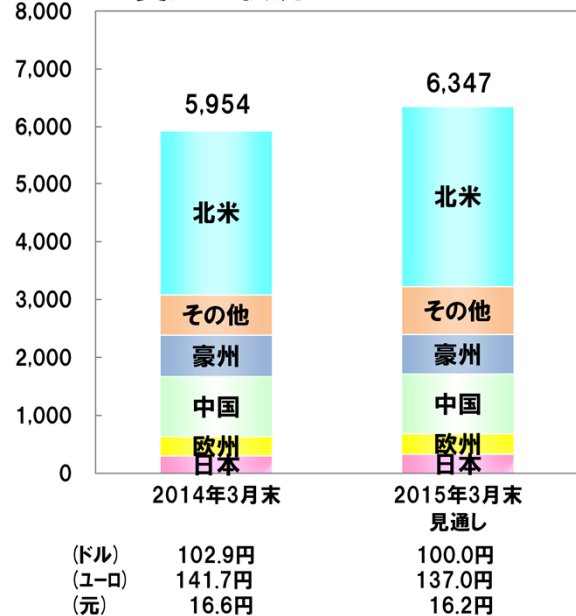
リテールファイナンスの見通し

27

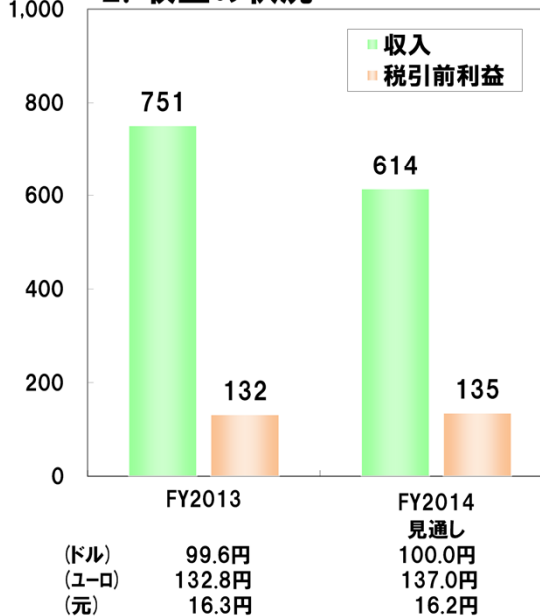
- ・資産は、主に北米での新規取組の増加により、前年度末比で増加の見通し。
- ・収益では、マイニング案件の減少等で収入は減少するが、利益は若干増加の見通し。

リテールファイナンス連結子会社の状況

1. 資産の状況



2. 収益の状況



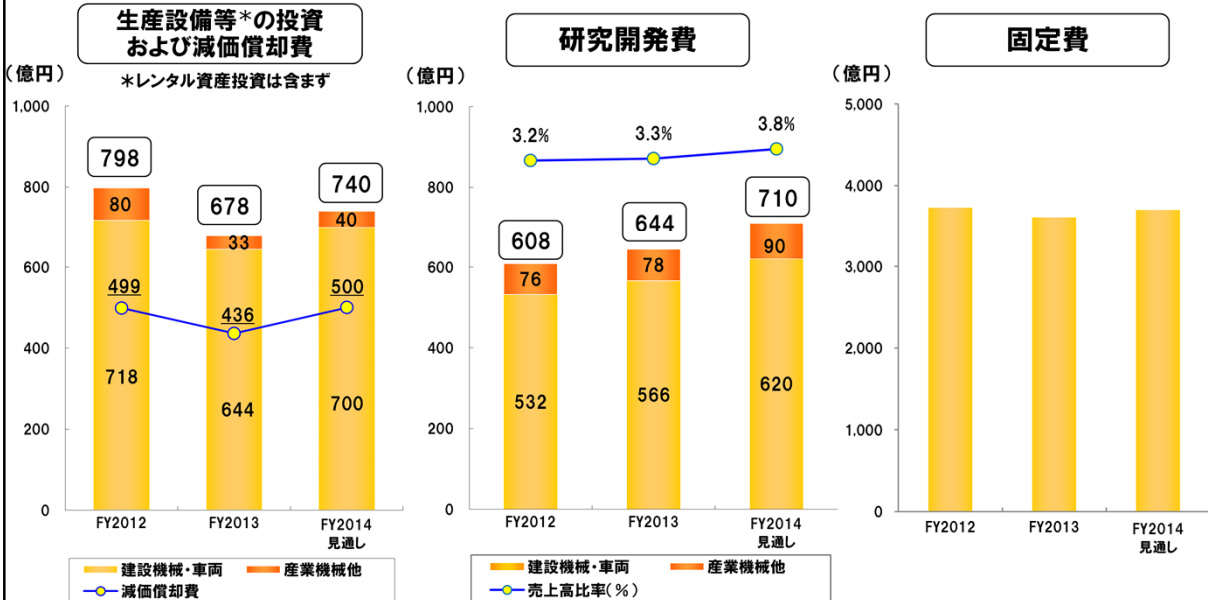
□2014年度末のリテールファイナンス事業の資産は、主として北米の新規取組の増加により、前年度比末で増加の見通しです。

□収入については、マイニングの取扱いが減少することにより前年比で減収となりますが、利益は若干増加する見通しです。

設備投資・減価償却費・研究開発費・固定費の見通し

28

- ・設備投資は、生産改革や建屋更新等により、生産性向上と生産固定費低減を継続・推進。
- ・研究開発費は、排出ガス規制対応や、次世代商品開発のための開発投資を引き続き強化。
- ・固定費は、一定の水準を維持しつつ、将来の成長に必要な人材や資源に投資。



□レンタル資産投資を除く生産設備等の投資は、2013年度は計画より抑制しましたが、生産改革を目的とした国内生産拠点の建屋更新等の投資もあり、2014年度は増加の見通しです。

□減価償却費は、2013年度に減価償却方法を定率法から定額法に変更した影響もあり減少しましたが、2014年度は増加する見通しです。

□研究開発費は、排出ガス規制対応や、次世代商品開発のための開発投資を引き続き強化していきます。2014年度の研究開発費は前年比約+65億円増加の見通しです。

□固定費は、一定の水準を維持しつつ、将来の成長に必要な人材や資源に投資していきます。2014年度は研究開発費の増加もあり、増加する見通しです。

**<参考資料>**

## 2014年第4四半期(1-3月)の連結売上高と損益

30

% : 利益率 ( ): 外部顧客向け売上高

金額単位: 億円

	2013年1-3月 1ドル = 90.7円 1ユーロ = 120.1円 1元 = 14.6円	2014年1-3月 1ドル = 102.7円 1ユーロ = 139.9円 1元 = 16.9円	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	5,344	5,641	+297	+5.6%
- 建設機械・車両	(4,713) 4,719	(5,008) 5,014	(+295) +295	(+6.3%) +6.3%
- 産業機械他	(630) 656	(632) 642	(+2) ▲13	(+0.4%) ▲2.1%
- 消去	▲32	▲15	+16	-
セグメント利益	11.8% 629	13.9% 784	+155	+24.7%
- 建設機械・車両	12.8% 605	15.5% 779	+174	+28.7%
- 産業機械他	3.7% 23	1.4% *1 9	▲14	▲61.8%
- 消去または全社	▲0	▲3	▲3	-
その他の営業収益(▲費用)	▲18	▲36	▲18	-
営業利益	11.4% 611	13.3% 748	+137	+22.5%
その他の収益(▲費用)	▲20	▲29	▲8	-
税引前純利益	590	719	+129	+21.9%
純利益*2	352	441	+89	+25.4%

\*1 コマツNTCIにおけるワイヤーソー在庫に係る損失▲32億円を含む。

\*2 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する四半期純利益」

## 2014年第4四半期(1-3月)の売上高内訳

31

## 1. 建設機械・車両(地域別: 外部顧客向け)

金額単位: 億円

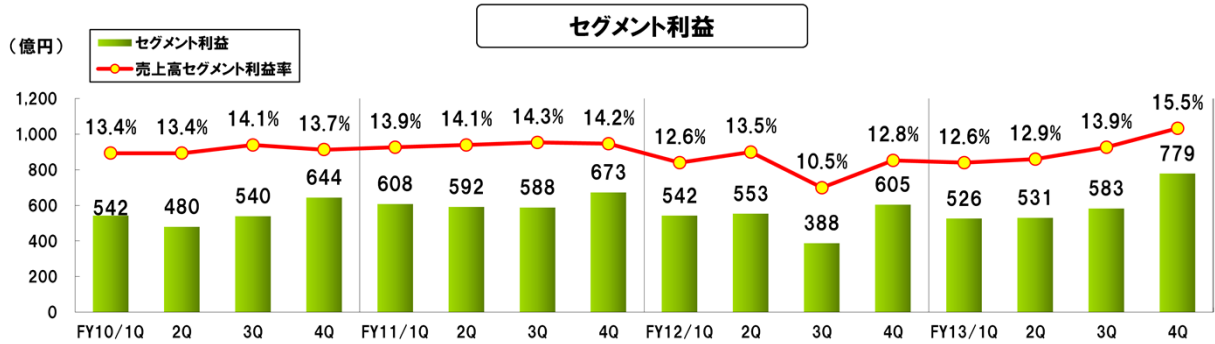
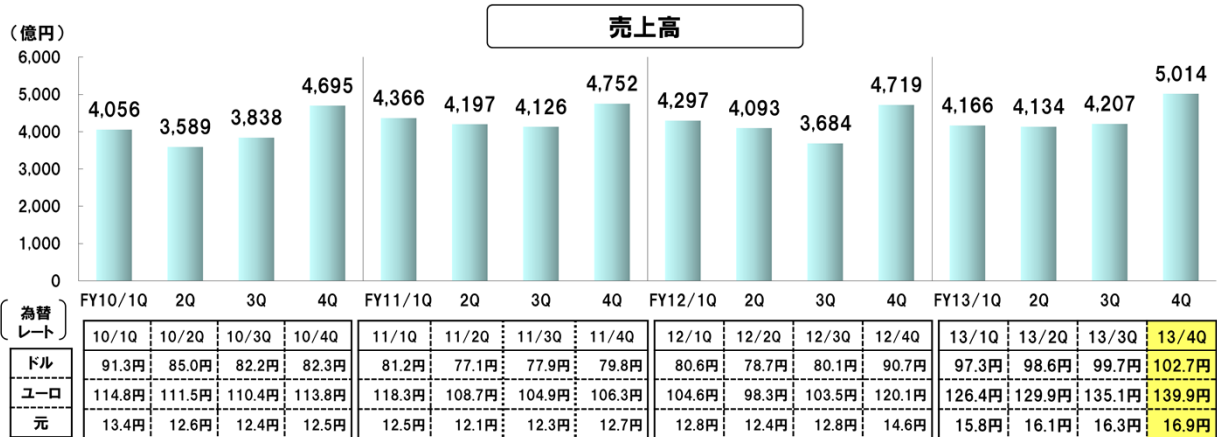
		2013年1-3月 1ドル = 90.7円 1ユーロ = 120.1円 1元 = 14.6円	2014年1-3月 1ドル = 102.7円 1ユーロ = 139.9円 1元 = 16.9円	前年同期比	
				増減	増減率
伝統市場	日本	842	965	+122	+14.5%
	北米	944	745	▲199	▲21.1%
	欧州	265	366	+100	+37.9%
戦略市場	中南米	635	830	+195	+30.7%
	CIS	238	166	▲71	▲30.2%
	中国	369	496	+127	+34.5%
	アジア	523	586	+62	+12.0%
	オセアニア	502	354	▲148	▲29.6%
	中近東	109	191	+81	+74.6%
	アフリカ	282	308	+26	+9.2%
	合計	4,713	5,008	+295	+6.3%
うち、鉱山機械		1,570	1,523	▲47	▲3.0%

## 2. 産業機械他

金額単位: 億円

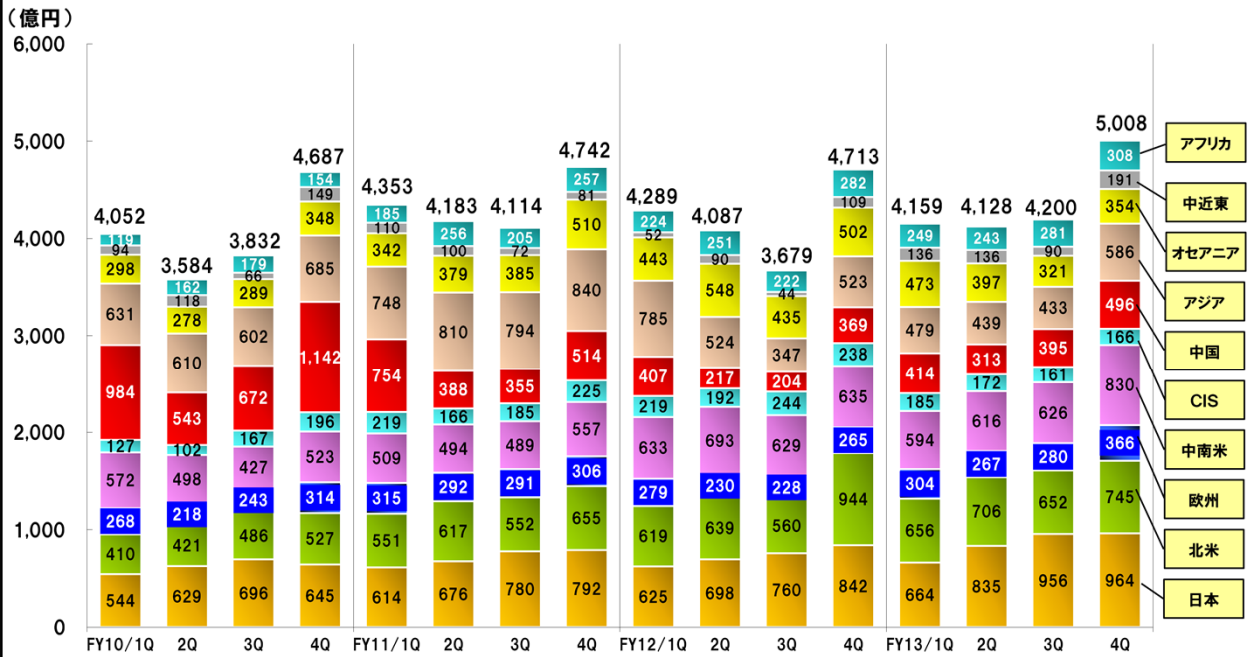
	2013年1-3月	2014年1-3月	前年同期比	
			増減	増減率
コマツ産機等(板金鍛圧事業合計)	207	168	▲38	▲18.7%
コマツNTC	207	261	+54	+26.1%
[うち、ワイヤーソー]	[11]	[29]	[+17]	[+148.5%]
その他	241	212	▲29	▲12.1%
[うち、ギガフォトン]	[75]	[64]	[▲11]	[▲14.7%]
[うち、コマツハウス]	[57]	[56]	[▲0]	[▲1.4%]
合計	656	642	▲13	▲2.1%

<建設機械・車両> 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移



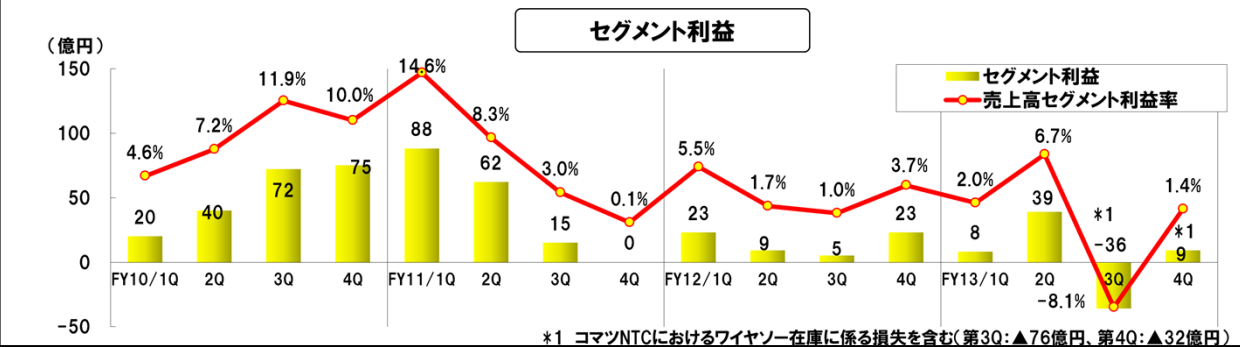
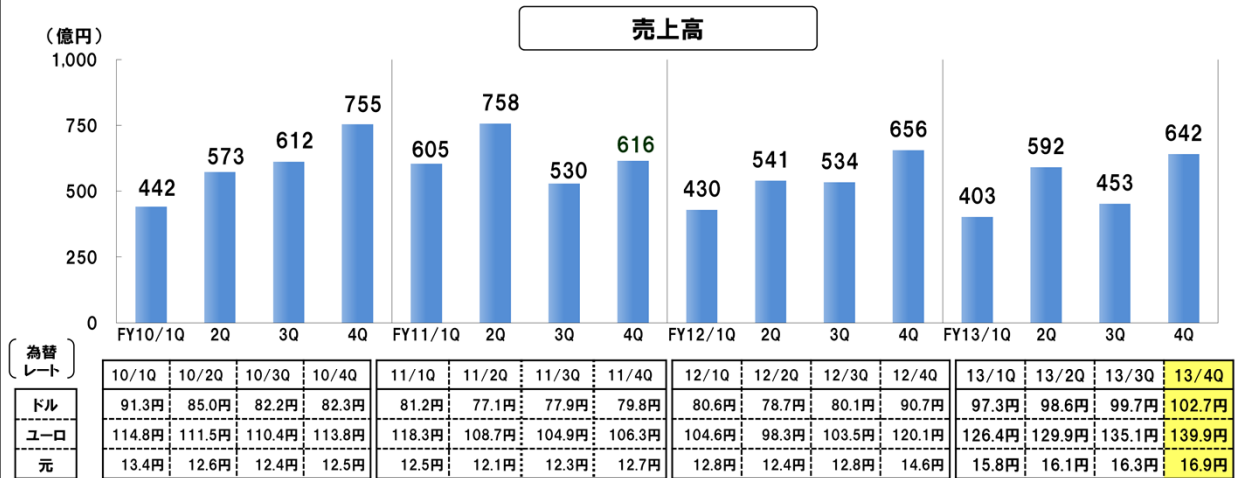


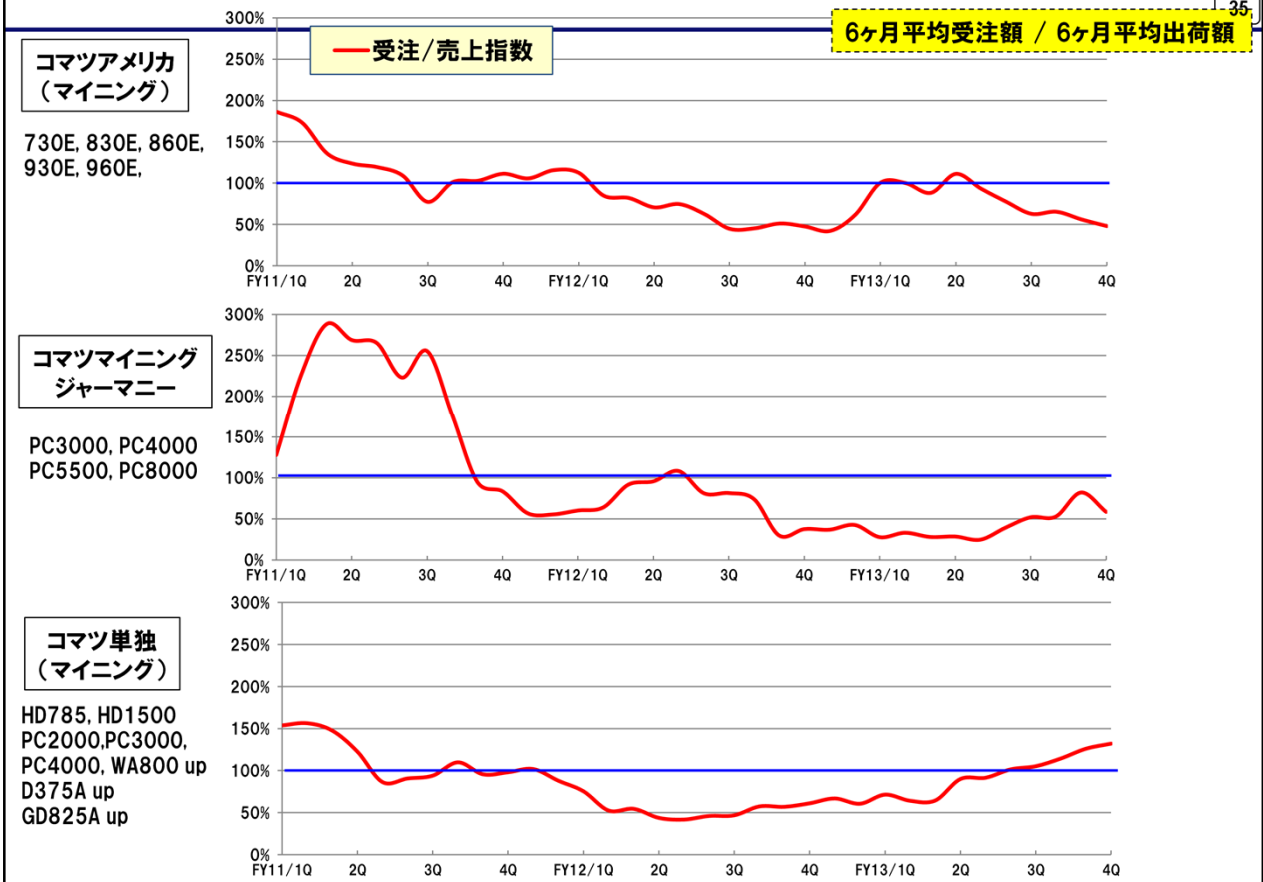
<建設機械・車両> 四半期毎の地域別売上高(外部顧客向け)



為替レート	FY10				FY11				FY12				FY13			
	10/1Q	10/2Q	10/3Q	10/4Q	11/1Q	11/2Q	11/3Q	11/4Q	12/1Q	12/2Q	12/3Q	12/4Q	13/1Q	13/2Q	13/3Q	13/4Q
ドル	91.3円	85.0円	82.2円	82.3円	81.2円	77.1円	77.9円	79.8円	80.6円	78.7円	80.1円	90.7円	97.3円	98.6円	99.7円	102.7円
ユーロ	114.8円	111.5円	110.4円	113.8円	118.3円	108.7円	104.9円	106.3円	104.6円	98.3円	103.5円	120.1円	126.4円	129.9円	135.1円	139.9円
元	13.4円	12.6円	12.4円	12.5円	12.5円	12.1円	12.3円	12.7円	12.8円	12.4円	12.8円	14.6円	15.8円	16.1円	16.3円	16.9円

<産業機械他> 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移





■ 鉱山機械新車の、受注と売上の指数の推移を示しております。鉱山機械の受注状況について新しく作成した管理データです。

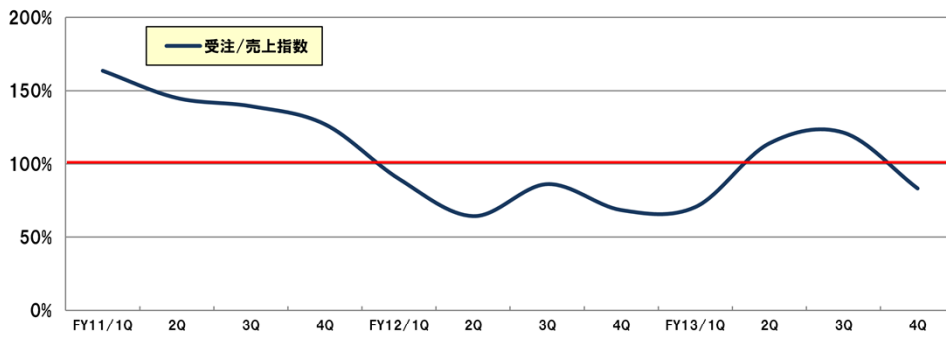
■ 上から、コマツアメリカで製造しているダンプ、ドイツのコマツマイニングジャーマニーで製造している超大型のH/E、日本で製造しているその他の鉱山機械の状況です。

■ グラフは、直近6ヶ月間の新車の受注額を、同じく6ヶ月間の売上高で割った指数の推移です。

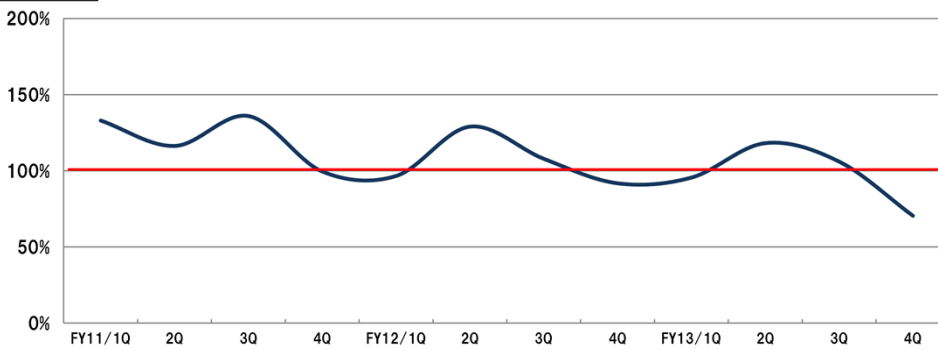
産業機械 受注/売上指数（6ヶ月）

コマツ産機

6ヶ月平均受注額 / 6ヶ月平均出荷額



コマツNTC  
(除くワイヤーソー)



■産業機械の、受注と売上の指数の推移を示しております。  
作成方法は先ほどの鉱山機械と同様です。



5月に販売を開始する  
新型バッテリーフォークリフト「FE25-1」

**【見通しに関する注記事項】**

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は、様々な要因の変化により、記載の予想、計画、見通しとは大きく異なることがあります。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。

コマツ 経営管理部 TEL: 03-5561-2687  
FAX: 03-3582-8332  
<http://www.komatsu.co.jp/>